

島根県雲南市 地域自主組織 視察報告

2023.11.28

はじめに～地域運営って何？

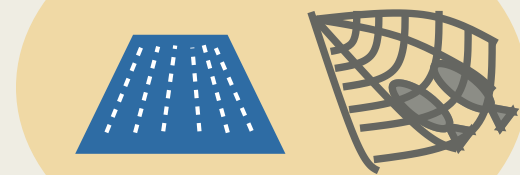
拠点運営



移動



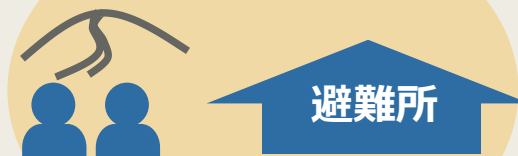
産業支援



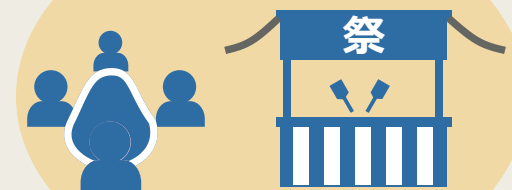
インフラ・施設維持管理



災害対応



不定期のお仕事



みなさんが、お住まいの地域ですずっと
住み続けていくために必要なお仕事です

視察の背景～人口減少にどう対応？

2020年の問寒別が「100人の自治会」だったら？

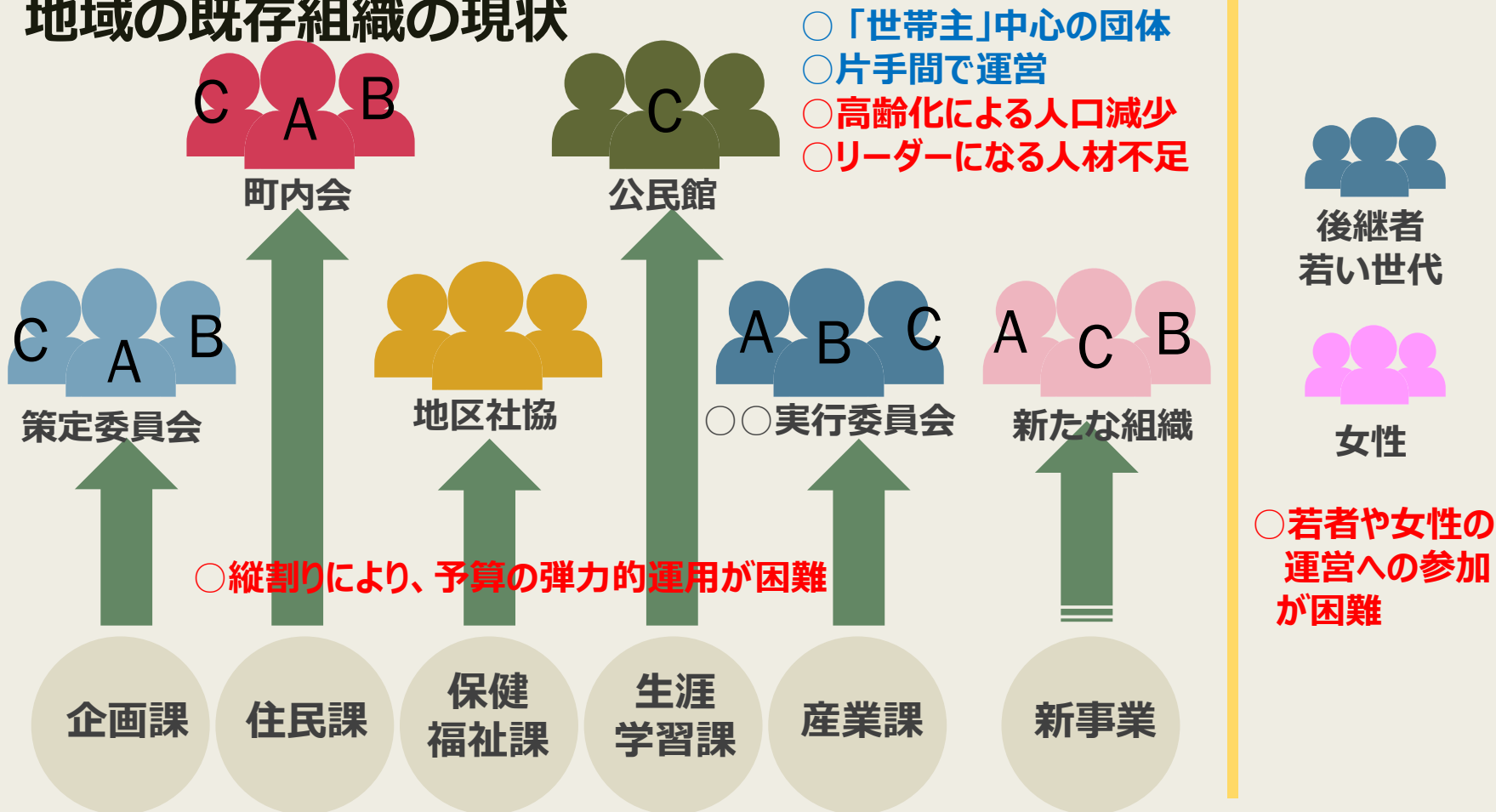
2023.6.1川北秀人氏講演資料より

	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年
計	153	120	100	81	62
0-14歳	24	13	14	13	8
15-64歳	93	77	53	44	39
65歳以上	35	30	33	24	15
65-74歳	19	15	17	11	7
75歳以上	15	15	15	13	8
85歳以上	1	4	4	2	2
世帯数 (うち独居) 世帯あたり	62 (20) 2.46	54 (19) 2.21	54 (24) 1.87	47 (23) 1.73	37 (19) 1.68

人が減ると今までのように運営ができません

視察の背景～地域の運営をどう再編？

地域の既存組織の現状



地域の団体の運営者が特定の人に偏り、
そのリーダーの成り手も不足しています

視察の背景～地域運営組織

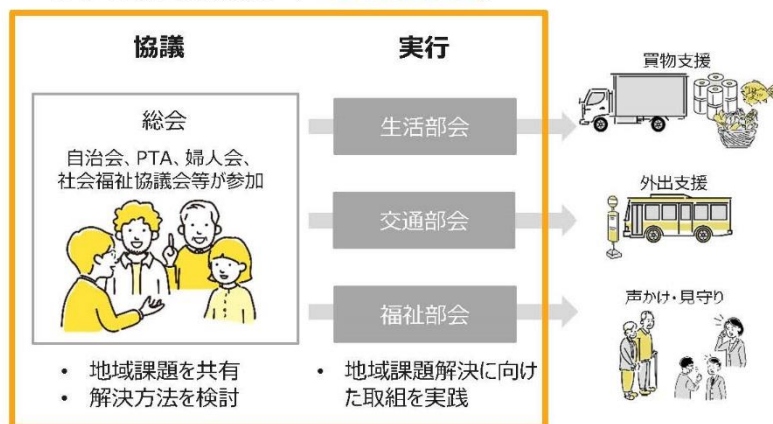
人口減少の中での地域運営を実践する方法のひとつに、「**地域運営組織**」の設立があります。

▶▶ 地域運営組織とは

- 地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。
- 地域運営組織の組織形態としては、協議機能と実行機能を同一の組織が合わせ持つもの（一体型）や、協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して別組織を形成しつつ、相互に連携しているもの（分離型）など、地域の実情に応じて様々なものがある。

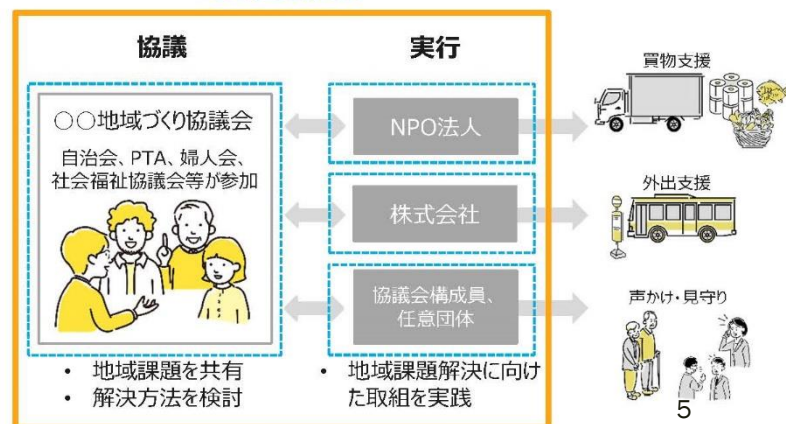
（一体型のイメージ）

○○地域づくり協議会（＝地域運営組織）



（分離型のイメージ）

地域運営組織



視察の概要

- 全行程：令和5年11月12日～15日
- 視察日程：11月13日（月）～14日（火）
- 参加者：18人
 - ・ 地域住民：8人
 - ・ 幌延町役場：7人（協力隊含む）
 - ・ 関係機関：3人

視察の目的

- 問寒別地区では、人口減少のなかでもいつまでも安心して暮らし続けられる地域をつくるため、「地域運営組織」を有効な手段として考えています
- 地域運営組織の先進的な事例は、島根県雲南市の「地域自主組織（地域運営組織）」です
- 雲南市を視察し、人口減少の中でも地域運営を持続するためのヒントを得ることを目的として、視察を行いました
- 行政の「地域運営組織」に対する支援のあり方についても検討するため、役場職員も多く参加しました

視察先の概要（雲南市役所から全体概要説明あり）

- ① 波多コミュニティ協議会（人口261人、123世帯）
- ② 多根の郷（人口388人、147世帯）
- ③ 新市いきいき会（人口491人、182世帯）
- ④ 躍動と安らぎの里づくり鍋山
（人口1180人、427世帯）
- ⑤ 中野の里づくり委員会
（人口456人、187世帯）



雲南市の地域自主組織

- 雲南市内の30の地域に「地域自主組織」がある
- 地域自主組織はH16の市町村合併で結成開始、H19までに全域で結成完了
- 地域自主組織は雲南市と協定を締結し役割分担を記載
- H21から「公民館」を「交流センター」と変更し、地域自主組織の活動の拠点として位置づけ

地域と行政の協働のまちづくりに関する基本協定書

【地域自主組織の役割】

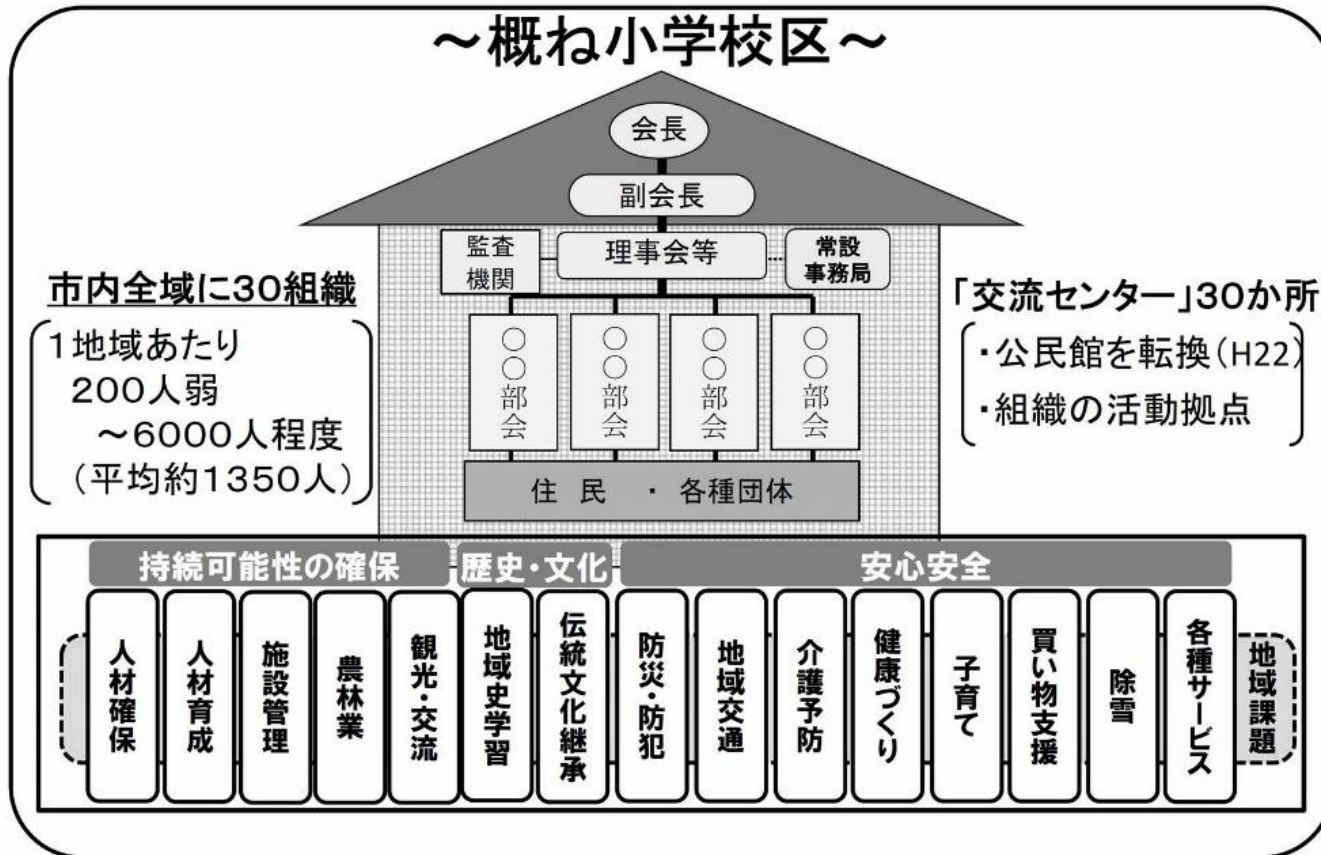
- (1)必須業務
 - 1.行政連絡業務
 - 2.地域要望の把握
 - 3.各種委員の推薦
- (2)選択業務
 - 各種施設の指定管理等

【雲南市の役割】

- (1)情報の提供
- (2)研修機会の提供
- (3)人的支援
- (4)活動資金の提供
- (5)活動拠点施設の提供
- (6)その他相互に必要と認めること

地域自主組織の標準的な体制

地域自主組織の組織体制・拠点施設



地域の経営体（住民自治のプラットフォーム）
 地域課題を、住民自らが、事業化して解決！

地区計画（5か年程度）
 に基づく事業を展開

ポイント① 人材の確保について

- 専従の職員が運営の核となっている
 - 市からの交付金などを活用して、常勤または非常勤の職員を雇っている
- 多様な方法で仕事をこなしている
 - 常勤職員の「兼業」で実施（1人工に満たない事業を複数実施して1人でこなす）（波多など）
 - 1人工の仕事（面倒な仕事）を複数人で手分けして行う（鍋山など）
 - 仕事を創出して域内から域外へ働きに出ている人を取り込む（中野など）
 - 域外から働き手を取り込む（鍋山など）
 - すそ野の広い活動でボランティアを募る

常勤職員



職員がレジ打ち兼務



ポイント② 様々な資金源を活用

- 住民からの会費収入[全ての団体]
- 市からの交付金（3億円/30団体） [全ての団体]
- 市からの委託料や指定管理料[全ての団体]
- 国などからの補助事業[鍋山など]
- 収益事業



温泉施設の指定管理
(年間約1千万円) (波多)



水道検診（515口、年間97万円）
と同時に見守り活動（鍋山）

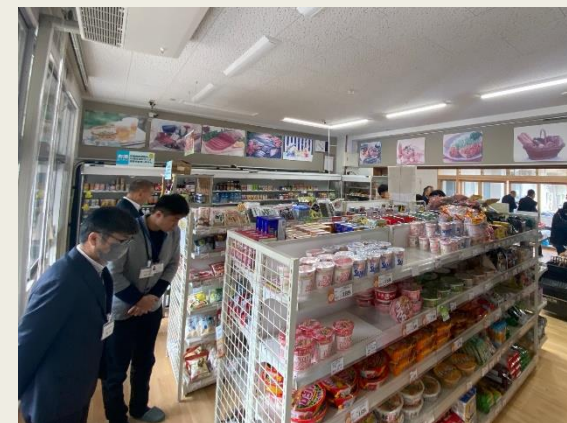


高齢者宅の除雪支援
(1800円/時間)¹² (多根)

ポイント③ 多様な取り組み内容

- 地域管理**：公共施設（温泉等）の指定管理（波多ほか）
道路の草刈り
農地の管理（鍋山）
水道検診（鍋山）
- 拠点運営**：店舗・市の運営（波多、中野ほか）
交流センター運営（全て、指定管理）
避難所運営（多根ほか）
- 生活支援**：移動支援（波多、鍋山、中野ほか）
暮らしの支援（除雪等）（多根ほか）
お弁当配達（多根ほか）
防災機能確保（多根ほか）
見守り（水道検診かねて）（鍋山）
- 団体支援**：事務代行（もと公民館の機能）
活動助成金の支給（中野）

などなど



お店の運営（波多）



送迎支援（波多）

ポイント④ 既存団体との連携

■ 自治会（町内会）との関係

- 意見把握・情報伝達
- 会費の徴収を自治会に委託
- 新組織における部会構成員（負担軽減のためあえて動員しない組織もある）

■ 既存団体との関係

- 独自事業を新組織の事業として統合
- 組織体制の評議員として合意形成に参画
- 既存団体の存続に地域自主組織が助成金支払い

■ 農業者団体

- 農村RMO形成事業などで中山間直接支払いに関する団体と連携して事業実施（鍋山）

ポイント⑤ 皆が参加する計画づくり

■ 地域の現状を細かく把握

- 地域住民の情報（住民福祉カードの作成：新市など）
- 地域住民全員が参加するアンケート
（中学生以上に1人1通、多根地区では回収率96.5%）

■ 地域の意見を何度も聞く

- 全住民対象のヒアリングを3回実施（波多）

■ 5年間のビジョンを作成

- 自治会長、世代ごとの代表者など多様な方の参加による計画策定（全て）

■ 5年ごとに見直し

- アンケート等同じプロセスで見直し

ポイント⑥ リーダーが楽しそう

- 各団体で対応していただいたリーダーは高齢の方もいらっしゃるが、みな楽しそうにお話ししていた
 - 「（引継ぎについて）後のことは考えない。後のことは後の人が好きなようにやればいい。」（鍋山）
 - 「防災のことをいろいろ考えるのは大変だが、考えることは嫌いじゃない」（多根）



ポイント⑦ 立派な拠点がある

- 協定により、市が活動拠点を用意することとなっている
- 「公民館」を「交流センター」に変更し、自由な活動を可能
- 防災時の避難所となるよう、シャワー室や防災備蓄なども確保



まとめ といかんでの実践に向けて

■ 人材の確保について

- 専属の職員によるマルチタスク、地域内外の人材の活躍の場の創出

■ 様々な資金源を活用し、多様な取り組み内容を展開

- 専属の職員を雇用する安定的な資金源により、地域の生活に必要な事業を行う

■ 既存団体との連携

- 活動の共同実施、一部受託、人的支援などで連携

■ 皆が参加する計画づくり

- 計画における意見把握、実施における参加など皆が参加する機会を創出

■ リーダーが楽しそう

- リーダーへの負担を減らし、アウトカムを想定した活動へ

■ 立派な拠点がある

- 既存の施設なども使いながら、どのような拠点が必要か検討

■ 柔軟な行政支援

- 既成概念にとらわれない地域に根差した仕組みづくりと必要に応じた見直し